

【各学部の事例】

小学部



I 小学部3年国語科2グループの実践事例

(1) 対象児童と段階、年間目標等の設定

児童名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
3年 IY (男)	①濁音や助詞が含まれる平仮名の2～3語文の平仮名を読んだり書いたりする。	小2段階、目標イ 思判表Bイ
	②絵本や写真の内容を大まかに捉え、伝えたいことや登場する人物等の気持ちを思い浮かべて話す。	小2段階、目標イ 思判表Bア
3年 SF (男)	①日常生活でよく使われる単語や濁音や助詞「を」を含む平仮名を読んだり、書いたりする。	小2段階、目標イ 思判表Bイ
	②写真やイラストを見て、状況や登場人物の感情を思い浮かべて話す。	小3段階、目標ウ 思判表Aウ

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは児童名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	「えをみてこたえよう」（イラストを見て気付いたことを話す）…IY②・SF② 「ひらがなをよもう、かこう」（濁音のある平仮名の読み書き）…IY①・SF① 「くいずをつくってはっぴょうしよう」（クイズを考える、発表練習をする）IY②、SF② 「かぎの『を』がついているぶんをかいてみよう、よんでみよう」（2～3語文を話す、読む、書く）…IY①・SF①
生活単元学習	「おはなしせんぼく」（読み聞かせの練習・発表）…IY②・SF② 「なかよくなるろう」（学校間交流、居住地校交流礼状作成）…IY①・SF①
日常生活の指導	「あさのかい」（給食、日付と天気に関わる発表活動）…IY①、SF① 「かかりのしごと」（朝の会の前に日付と天気を書く）…IY① 「かえりのかい」（頑張ったことの発表活動）…IF②・SF②

(3) 重点事項に基づく国語科の授業づくり・授業実践

① 単元名「くいずをつくってはっぴょうしよう」（計23時間）

② 単元目標（全体目標）

ア イラストや写真、動画などを見て、生活に身近な物の名前や動作など色々な言葉に触れ語彙を広げる。（知・技）

イ 生活に身近な物について仲間集めをしたり、動作を二語文で表現したりして、クイズを考える。（思判表）

ウ クイズの発表会に向けて意欲的にクイズを作ろうとしたり、自分の思いや考えを友達や教師に伝えようとする。（学・人）

③ 単元設定理由

本単元では、生活に身近な写真やイラスト、単語の付いた短冊を「たべもの」「のりもの」「どうぶつ」などに仲間分けしたり、クイズを作って発表したりする活動を行った。食べ物、乗り物など身近で興味・関心のあるものの仲間分けは、児童にとって回答しやすく、積極的に活動する姿が期待できると考えた。また、写真やイラスト、実物、動画等を見て連想したことを「（何）を（どうする）」の型の二語文で答え、それをもとにクイズをつくる活動も設定した。一連の活動を通して、語彙の拡充及び二語文（助詞を含む）表出の定着を図りながら、生活単元学習における読み聞かせ発表会の絵本に関連させた仲間分けクイズの出題及び帰りの会における感想発表等に生かしたいと考え、本単元を設定した。

④ 単元の個人目標

※単元終了後の学習評価を次の評価で行う。

<p>◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。 △：一部達成している。まだ支援を要する。</p>				
児童名	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標・内容
3年 IY (男)	知・技	「たべもの」などの文字を見て、短冊を分類したり、身近な食べ物の名前を話したりする。	◎	国語科 2段階 (1) 目標 ア (2) 内容 [知・技] (イ) [思判表] ア
	思判表	動作を表すイラスト、教師の動作、動画を見て、「じゃがいもをきる」などの二語文で話す。	○	
	学・人	クイズを作る過程を楽しみ、友達と知っているものを話したり、短冊を分けたりする。	◎	
3年 SF (男)	知・技	イラストや動画を見て、乗り物に関連する「乗る」「飛ぶ」「走る」、食べ物に関する「切る」「むく」「食べる」などの言葉を知ったり、話したりする。	○	国語科 2段階 (1) 目標 ア (2) 内容 [知・技] (イ) [思判表] ア
	思判表	正解、不正解の選択肢となる単語を考えてクイズを作る。	○	
	学・人	クイズを発表することを楽しみにしながら、司会の役割に意欲的に取り組む。	◎	

⑤ 授業づくりの重点事項の有効性及び単元における児童生徒の変容

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 助詞カードの活用

日常の会話では2名とも助詞を用いて話すことがなかった。そこで、助詞を使った話し方に慣れるように、二語文で話す活動の際には「を」「の」「は」「て」「に」「が」の助詞カードを準備した。児童が話したことを教師が板書し、助詞カードを張り付けて児童と一緒に読むことで、助詞を意識した話し方ができるようになってきた。「が」「の」などの使い方も知る機会にもなっており、今後さらに伝える力の広がりにつなげたい。

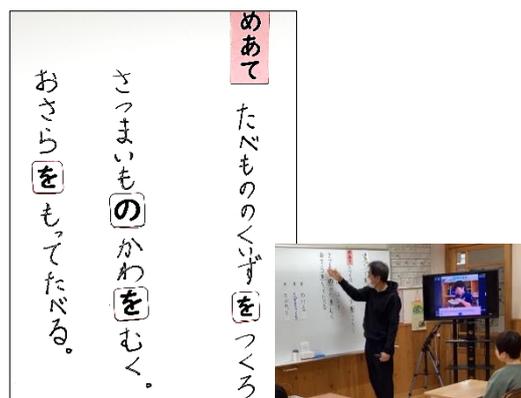


写真1 助詞カードを利用した板書

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 発表会の設定と学習内容の工夫

クイズ発表会を設定したことで、児童がクイズを作る活動を楽しみ、少し苦手な読むことを中心とした発表の練習にも粘り強く取り組む姿が見られた。また、二語文の学習を生かすために、写真を見て「何をしているでしょうか」の問いに答えるクイズを作り、教師と一緒にロイロノートスクール（以下、ロイロノートと示す）でスライドを作成した。右の写真1の問題に対する回答の選択肢となる

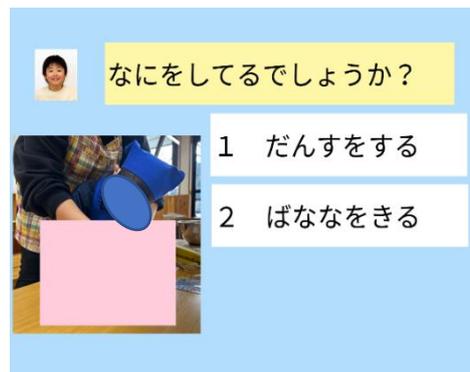


写真2 ロイロノートで作成したスライド

短文を考えることで、楽しみながら言葉と動きを結びつけることができた。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 児童の伝える力、聞く力の向上のために

授業研究会を実施した際、本時のめあてを「のりもののくいずをつくろう」とした。授業の振り返りでは、「クイズを作ることができたか」「読むことができたか」などを確認する場面を設定した。めあてを振り返ることで、児童は「できた」という達成を味わうことができた。しかしそれ以外にも「(クイズを) 作ることが楽しかった」「じょうずに書けた」など、児童自身が感想を話す振り返りをすることによって、学びがさらに生かされ、児童の伝える力、聞く力の向上が期待できたのではないかと考える。

(4) 他の学習場面における国語科単元で学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象児童・単元名、関連する国語科の年間目標

生活単元学習・3年IY・「おはなしせんぼく」(計50時間)、年間目標①

② 国語科の対象単元の個人目標及び年間目標に関わる成果

ア 読む力の向上

IYは絵本が好きだが、自分が文字を読むことには苦手意識がある。そこで年間目標①を達成するために、単元名「おはなしせんぼく」における読み聞かせの発表会に向けた学習で、読むことへの抵抗感を減らしたいと考えた。発表会の練習にあたり、モニターに顔写真とせりふを表示させ、教師の演示を聞いてから話したり、一文字ずつ読む練習を繰り返し行ったりしたところ「でんきをつけてちょうだい」などの短文が読めるようになった。予測読みで話すこともあるが、文字を読む力が向上した。



写真3 発表で使用したスライド

③ 授業者の課題・改善案

ア 機会をとらえた丁寧な指導

発表会の活動を通して話したり、読んだりしたことを、日常の関わりに取り入れ、使っていくことが今後の課題である。生活単元学習の調理学習で、ケーキの作り方を知る際に、児童が自発的に話す機会を設けるようにしたところ、「たまごをわる」「ぎゅうにゅうをいれる」など、助詞「を」を使って話すことが増えた。ただ、授業以外の日常の場面では、「フルーチェつくりました」など助詞を使って話すことが少ないため、教師と一緒に言い直したり、言い方を考えたりするように丁寧に指導することが必要である。

2 小学部4・6年国語科4グループの実践事例

(1) 対象児童と段階、年間目標等の設定

児童名	年間目標 (国語科で目指す資質・能力)	国語科の段階・目標・主な内容
4年 KA (男)	①体験したことや伝えたいことを短い言葉で話したり、濁音や促音を含む平仮名や片仮名で語句や短い文を読んだり書いたりする。	3段階、目標イ知・技ア(ウ) 思判表Bウ

	②易しい絵本などを教師と一緒に音読し、登場するものや動作などを想像したり、簡単な質問に答えたりするなど、内容の大体を捉える。	3段階、目標イ 思判表Cアイ
6年 TY (男)	①体験したことや見聞きしたことを短い言葉で話したり、濁音や促音、拗音を含む平仮名や片仮名で語句や短い文を読んだり書いたりする。	3段階、目標イ 知・技ア(ウ) 思判表Bウ
	②易しい絵本などを音読し、挿絵をもとに登場人物の行動や場面の様子などを想像したり、時間的な順序など内容の大体を捉えたりする。	3段階、目標イ 思判表Cアイ

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名(指導内容)★イニシャルは児童名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	「ひらがなをよもう えほんをよもう」(拗音、長音、促音の読み方を習得し、文字をよく見て正しく読む)…TY①、KA① 「よみきかせのはっぴょうかいをしよう」(挿絵や会話に関わる簡単な質問に対して二、三語文程度で話したり書いたりする)…TY①②、KA①② 「かたかなをよもう、かこう」(片仮名で書かれた単語を読んだり、書いたりする)…TY①、KA①
生活単元 学習	「かくのだてをたんけんしよう」「じぶんのこと、かぞくのこと」(体験したこと、見聞きしたことを「いつ」「だれと」などの項目に沿って文章にまとめる)…TY①、KA①
日常生活 の指導	「あさのかい」(今日の予定及び週予定を視写及び聴写し平仮名で書く)…TY① 「あさのかい、かえりのかい」(話し方の基本姿勢や声の大きさを意識して司会を行う)…KA①
その他	「すべての単元」(振り返りの観点【①がんばったこと、②わかったこと、③気を付けたこと、④難しかったこと、⑤楽しかったこと等】に基づいた発表)…TY①、KA①

(3) 重点事項に基づく国語科の授業づくり・授業実践

① 単元名「よみきかせのはっぴょうかいをしよう①～さんびきのこぶた～」(計12時間)

② 単元目標(全体目標)

ア 絵本に出てくる言葉の表す内容が分かり、挿絵や会話に関わる簡単な質問に対して二、三語文程度で話したり書いたりする。(知・技)

イ 絵本を読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像したり、登場人物になったつもりで読み聞かせの発表をしたりする。(思判表)

ウ 自分の思いや考えを友達や教師に伝えようとする。(学・人)

③ 単元設定理由

本単元で取り上げる星本教科書「さんびきのこぶた」はパターン化された分かりやすい内容であり、出来事の順序を捉えて内容や様子を思い浮かべたり、語彙を拡充したりするなど力を育成することができると考えた。

また、「さんびきのこぶた」は会話文を中心に構成されている。本単元では「だれが」「何を」「どうした」等の質問に沿って絵や会話に合った説明文を考えて書き、絵本に掲載する活動を設定した。児童の課題である、質問に沿って二、三語文程度で話したり、字形に気を付けて書いたりする力を高めようと考えた。

さらに、単元の後半に読み聞かせやクイズの発表会を設定することで、声の大きさやスピードなどの発表のポイントを意識したり、登場人物の行動や気持ちなどを想像したりするなど、練習や準備に意欲的に取り組むことができると考えた。発表会後には参観者から発表の成果と課題・改善案など意見をいただき、国語科の関連する単元や生活単元学習の地域探検及び学校祭の劇発表などの単元につなげたいと考え、本単元を設定した。

④ 単元の個人目標

※単元終了後の学習評価を次の評価で行う。

- ◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
 △：一部達成している。まだ支援を要する。

生徒	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標及び内容
KA 4年 (女)	知・技	平仮名で書かれた文章をよく見て読んだり、選択肢から単語や助詞を選んで二、三語文を構成したり丁寧に書いたりする。	◎	国語科3段階 (1) 目標 ア、イ (2) 内容
	思判表	登場人物の行動や気持ちなどを想像して簡単な言葉で話したり、適切な声の大きさで話したりする。	○	[知・技]ア(ウ) ウ(ウ)④
	学・人	絵本に親しみ、自分の思いや考えを簡単な言葉で話して友達や教師に伝える。	○	[思判表]Cア、エ
TY 6年 (男)	知・技	言葉の意味を簡単に説明したり、「だれが」「なにを」「どこで」「どうしたか」等、簡単な質問に答えて、二、三語文を構成したり丁寧に書いたりする。	◎	国語科3段階 (1) 目標 ア、イ (2) 内容
	思判表	登場人物の行動や気持ちなどを想像して自分の言葉で話したり、登場人物になりきって適切な声の大きさやスピードで話したりする。	◎	[知・技]ア(ウ) ウ(ウ)④
	学・人	絵本に親しみ、自分の思いや考えを話して友達や教師に伝える。	○	[思判表]Cア、エ

⑤ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び児童生徒の変容

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 単元のゴールや評価場面の設定

小学部低学年の児童や教師を参観者とする発表会の機会を設定したことで、児童が意欲的に読み聞かせやクイズの発表練習に取り組むことができた。また、参観した友達や教師が読み聞かせ発表で良かったこと、がんばってほしいこと等の他者評価を記入した付箋紙等を掲示し、次の発表会の改善につなげることができた。

(イ) 字形の意識化

児童の普段の文字の特徴を表した平仮名を提示し、「『る』の最後は出ない」等の改善するポイントを伝えたことで、字形に気を付けて短い文を書くことができた。教室に正しい字形を掲示した(写真4)ことで、他の学習場面でも意識して書くことができた。

例えば、「さ、き、に」等でははねて書いたり、以前は「お」のようになっていた「ま」の最後の部分を横向きに止めたりすることができた。



写真4 平仮名の書き方

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 二、三語文の表現

木やレンガ、わらなどの実物等を提示しながら、「だれが」「なにを」「どうした」等の質問の項目に沿って考えたり、ロイロノート上で選択肢となる単語や助詞カードを並べて、文を構成したりする(写真5)活動を設定した。児童たちはこれらをヒントにして考えることで、「ぶうちゃんがいえをつくりました」等、挿絵や会話に対応した二、三語程度の文を作ることができた。

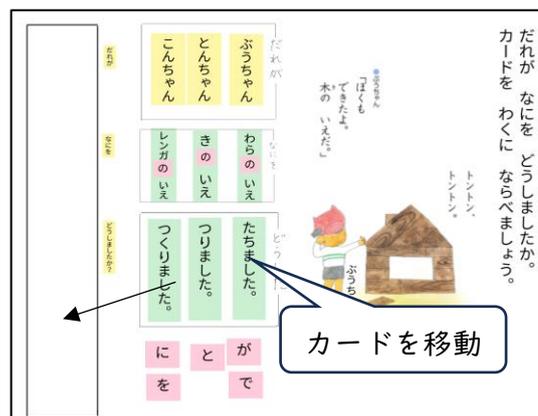


写真5 文の構成

(イ) クイズを通した物語の時間的な順序や内容などの読み取り

挿絵や文字カードなどをお話に出てくる順に並べ替えたり(写真6)、わら、木、レンガの重さを比較したり、ふきだしに当てはまる気持ちを考えたり選んだりするなど、クイズとして具体的に考える場面を設定した。物語を想起したり、実物で重さを確認したりして、自分たちで正誤を含む選択肢を比較し、選ぶことで、物語の時間的な順序や内容などを読み取ることができた。

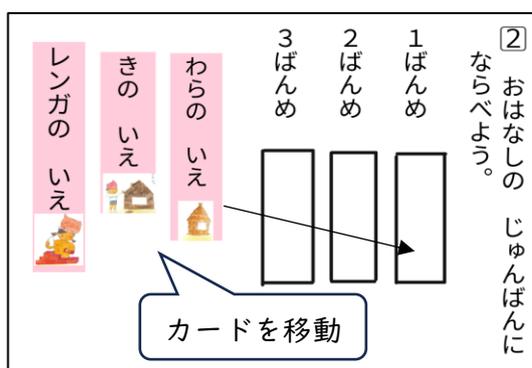


写真6 お話の順番

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境づくり

(ア) 基本的な学習態度の育成

読み聞かせ発表会を企画することで目的意識をもって発表やクイズの練習等に取り組むことができた。しかし、時間いっぱい集中力が続かなかったり、聞く姿勢が不十分だったりする場面も見られた。国語科や各教科等合わせた指導だけでなく、小学部で教育活動全体を通して学習ルールの徹底を共通実践し、基本的な学習態度の育成を図る必要がある。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 言葉の理解を深める工夫

児童 TY は、「(ぶうちゃんが木の家を) 作りました」を「組み立てました」、「かなづち」を「ハンマー」と発言したことがあった。教師はその言葉を取り上げ、それらの違いについて理解を深める必要があった。また、「かなづちでくぎをうちました」だけでな

く誤答例「くぎでかなづちをうちました」を取り上げるなど、助詞の違いで意味が異なってくることの理解も促すとよかった。そのためには授業展開に時間的な余裕をもたせたり、内容を焦点化したりする必要があった。

(4) 他の学習場面における国語科単元で学んだことの活用

- ① 指導の形態・学年・対象児童・単元名、関連する国語科の年間目標
生活単元学習・4年KA・「帰りの会」(計10時間)、年間目標①
- ② 国語科の対象単元の個人目標及び年間目標に関わる成果

ア 表現方法の習得

帰りの会の思い出発表では、「丁寧に字を書くのをがんばりました。」などと「～をがんばりました」の定型で発表していた。そこで、年間目標①の達成を目指して表現の幅を広げてほしいと思い、質問項目に合わせて発表するように促した。発表シート(写真7)を活用し、質問文に合わせて空欄に書いて事前に練習したり、ホワイトボードの時間割に書いた文を見ながら言葉を考えたりした。10月から活用を始め、次のように話すことができた。

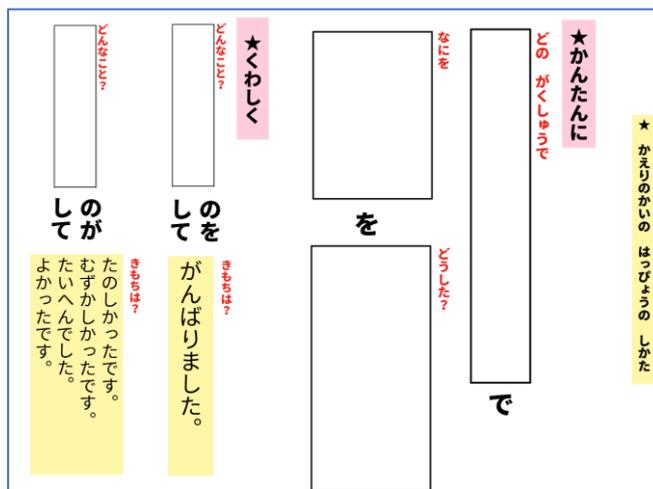


写真7 帰りの会の発表の仕方

(例1) 算数で大きな数をしました。100点をとってうれしかったです。

(例2) 交流で鬼ごっこをしました。タッチしてつかまえたのでうれしかったです。

③ 授業者の課題・改善案

ア 体験を通じた言葉の拡充

「両面テープを紙に貼りました」など体験したことを三語文程度で適切に伝えたり、新しい語彙を習得したりすることが課題である。そのために国語科だけでなく生活単元学習等での授業の振り返りの場面で、児童自身が伝えたいことを考えたり、発言を相手に伝わる言葉に修正したりする機会を繰り返し設定する必要がある。

3 まとめ

(1) 成果

① 学習意欲の向上

「読み聞かせ発表会」(4・6年)や「クイズ大会」(3年)等の発表会、「カレンダーの紹介」(6年)等の掲示物の作成など、国語科の対象単元のゴールを設定することで意欲的に取り組むことができた。特に発表会の設定は、「単元を通して目的意識を持続させる」「児童の『話す・聞く力』を高める」「学習の達成感をもつ」「次回への改善につなげる」ために有効であると考えられる。

② 話す力の向上

発語をもたない自閉症の児童(4年)は手話表現を拡充し、「3時間目は何の勉強ですか」

などの問い掛けにも適切に答えることができるようになった。また、児童（3年）は「バナナをきる」等と助詞を入れての二語文を表出するようになった。このように日常的に教師とのやりとりを多くして新しい言葉を習得したり、国語科等での発表会の機会を活用して正しい言葉を学習したりすることで、児童の話す力が高まった。

（2）課題

① 聞く力の向上を図る支援

今年度は聞く力の向上を図るために適切な言語環境づくりとして「聞くときの約束」を設定し、「①終わりまで聞く②顔を見る③姿勢」の3点を共通理解して指導を試みた。「話を終わりまで聞く」等の一定の成果はあったが、どの学習でも共通実践することが課題である。次年度は教員間で指導方法をより具体化して共通実践したい。

② 学びを広げるための情報共有

国語科では学級と異なる個々の学習状況に応じたグループで指導を進めており、教員間の指導内容や学習状況の共有が課題となった。知的障害の特性として「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすい」「実際の生活の場面で生かすことが難しい」等が挙げられる。「現在での国語科の新たに習得したことや課題等を含む学習状況」「各教科等を合わせた指導における国語の内容」などの情報の共有は児童の学びを広げるために重要であり、教員間の情報共有の工夫が求められる。